



百年塾フェスタ 方向転換の契機

10月6日「百年塾フェスタ2013」が、新都市広場やマーブルホール、シビックセンターなどを会場に開催されました。日立のまちにあるさまざま

親しみやすいテーマと新たな試み

百年塾では毎年フェスタ開催にあたり、各種事業推進のテーマとなる連携・協働をもとにさまざまな企画や工夫を重ねてきました。

今年はさらに、「遊んで学んで、



神永委員長の力強い開会宣言

日立の“いいね”をテーマに、祭りの要素を多く取り入れながら、市民が楽しく気軽に集い、さまざまな日立の“いいね”を体感したり再発見できるフェスタをめざしました。

御諏訪太鼓保存会青年部による和太鼓の力強い響きで幕を開けたオープニングでは、はっぴ姿の神永敏光実行委員長が開会を宣言、祭りのムードを盛り上げました。

会場のレイアウトを、新都市広場



名人と一緒にけん玉に挑戦
に子どもたちの歓声が広がるような
「遊びのひろば」にしたり、フリー
マーケットや手づくり工房でパティ

オモールの賑わいをつくるなどの工夫や、ギャラリーで「日立よいまち・絵になるまち写真展」をフェスタに先行して開催するなど、新たな試みもたくさんありました。

新たな連携と若い人たちの活躍

これまで各コミュニティには、地域のPRや産物の出店などで参加協力をもらっています。今年は北部地区のコミュニティに地域の“いいね”的パネル展示を依頼。地域の



特色と良さを再確認できる機会となりました。

新都市広場では、塙山小学校パンポンクラブの子どもたちが元気に試合を実演しました。また、セラピードッグの体験とPRで「ワンだあフレンド」が初参加。犬たちと楽しそうに触れ合う人たちで終始賑わっていました。

ステージでは午後2時46分に、震災復興応援として「ひたち童謡を歌う会」が復興応援ソング「花は咲く」などを披露し、美しい歌声が会場に響きました。

会場の各所では、今年多くの若いボランティアの人たちが活躍し、フェスタを支えてくれました。

な“いいね”を集め、楽しみながらまちづくりを考えるきっかけとなることを目指した今年は、新たな形でのフェスタへの第一歩となりました

たくさんの中学生が理科クラブのブースを手伝ったり、多賀高校、日立工業高校、明秀学園日立高校、日立二高の生徒たちが、子どもたちに大人気のゆるキャラ®やアナウンスを担当するなど大活躍でした。

また今回は、高校生ボランティアの取りまとめ役として市役所ボランティアサークル「ピンショスの会」も初参加。ボランティアとしての姿勢を示してくれて、高校生たちの素晴らしいお手本となりました。

より多くの人や団体との連携は勿論のこと、新たな発想と若い人たちの活躍の場の創出などが、今後フェスタを成功させる上での鍵となりそうです。

募集 あなたも百年塾推進委員になって いつしょに活動しませんか!

ひたち生き生き百年塾は1988年に発足しました。ボランティアの推進委員が行政関係者と意見や知恵を出し合い、よりよい生涯学習の環境づくりと運動を進めています。

百年塾推進本部は、情報・人財・ネットワーク・学校・産業の5部会を設け、現在、約150名の推進委員が活動しています。

誰でも、いつでも百年塾の推進委員になることができます。関心のある部会で一緒に活動してみませんか。

詳しくは百年塾サロンにお問い合わせください。（☎23-9165）

新規スタートしたプロジェクト事業の活動

今年度の新規事業としてスタートしたプロジェクトは人づくりやまちづくり、そして市民のみなさんの生涯学習を様々な形で支援していきます。

「日立よいまち・絵になるまち」写真展

写真を通して日立の魅力を再発見し、「日立は良いまちだね」と実感してもらいたいと「日立よいまち・絵になるまち実感プロジェクト」をスタートしました。

10月1～6日にシビックセンター1階ギャラリーで「日立よいまち・絵になるまち」写真展を計画し、作品を募集したところ、市内の名所



旧跡や美しい風景、人々の情景など力作140点の応募がありました。

写真展では106点を展示、期間中には2,200名の来場者があり、身近で見慣れた風景が季節や時間帯により見せるその美しさに改めて感

嘆し、見入っていました。

今回入賞されたのは下記の方々です（敬称略）。

大賞：畠山正（水戸市）、優秀賞：野地正治（金沢町）、佐藤和子（西成沢町）、小野正江（城南町）、松塚吉彦（川尻町）、松浦淳（大沼町）



なお、この写真展は10月9、10日に日立駅の交流プラザ「ぶらっとひたち」でも開催、今後も市内各所での開催を計画しています。

つながる 日立と世界の子どもたち

学校部会では現在、姉妹都市の学校とのメールによる情報交換を通し、

国際理解を図るプロジェクトを進めています。

プロジェクトを進めるに当たり、行政および本年度の支援校である台原中学校と協議をし、日立市の姉妹都市であるニュージランド・タウランガ市の学校と交流を図ることになりました。

台原中の一年生全員がグループに分かれ、メールを通して「台原中の一日の行事」を英文で紹介します。さらに、各項目ごとに質問を付けた資料を送り、先方からも同じような情報を送ってもらうことにしました。



こうしたメールによる海外との情報交換は、学校の授業の一環として取り組むことができ、国際理解を深めることができます。他の学年やさらには他の学校へと交流の輪が広がることが期待されます。

百年塾ってどんなことをしているの？

百年塾はこんな活動をしています

ご活用ください

学ぶ機会の提供

●市民教授の生き生き講座

みなさんのニーズに応えた市民教授による各種の講座を年間30件ほど講座提供しています。

●日立のまち案内人によるツアー

「日立のまち案内人」は市内の名所旧跡を紹介するツアーを企画し、市民のみなさんに日立を再発見していただいている。出前案内にも応じます。

●コミュニティ推進会との連携講座

市民教授の幅広い分野の講座を各コミュニティ推進会に提供しています。豊富な講座メニューが好評です。

●市民カレッジの開講

茨城キリスト教大学と共に、地域に目覚める講座など、幅広いカリキュラムを用意しています。大学の雰囲気も味わえ、特に受講された方同士が仲間になれる工夫をしています。

●広報セミナーの開講

学校や地域・団体の広報紙づくりを支援します。広報紙づくりの基本、編集の仕方を学べます。また、出前編集相談の支援も行っています。

情報の提供

●機関紙「百年塾ひろば」

市報内に織り込みの広報紙で日立市の生涯学習に関するさまざまな情報を提供しています。

●「百年塾ホームページ」

市民教授検索、講座・セミナーの開催案内、市内の各種団体へのリンクなど、日立市の生涯学習に関する情報を提供しています。

●グループ情報の提供

市民の趣味、健康、娯楽探しのお手伝いのため、グループの情報を収集・整理し、ガイドブックを発行しています。上記のホームページでもお目当てのものが容易に検索できます。

日立の独創技術の企業を訪ねて

高い技術力で独自製品を開発、提供している企業が数多くある日立。

11月の日立のまち案内人による「市内の独創技術の企業を訪ねる」ツアーに27名が参加しました。

スター・エンジニアリング（大沼町）では、生ゴミ処理機やバイオトイレに採用されている分解・堆肥化方式を東北大学と共同開発、特許を取得しています。この方式は高い分解能力が長期間持続するため、基材

を10年間取り替えない事例が多数、臭いが少ない、優れた肥料が生成できる、などの特長があります。

菊水食品（東大沼町）は、北海道産すずまる大豆と大洗沖の海底200mから採取した海水を精製・



食の安全を熱く語る菊水食品社長

進む 市内の自然エネルギー

昨年、十王など、市内11の交流センターに太陽光発電装置が設置されました。今年は更に仲町、中里、諏訪、大久保への設置が進められています。

交流センターの立地条件によって異なりますが、設置できる容量は8.0kWhが目安となっています。実際の発電量は天候や季節によって異なるので、実績を集積中のこと



十王交流センターの太陽光発電パネル

です。防災時の対策拠点となる交流センターでは、平常時は館内の省エネに利用し、災害時には無停電で地域の救済センターの役割が期待されます。また、中里地区の水力発電、東大沼町内の風力発電機なども実用化されています。

日立市の太陽光の年間平均日射量は国内トップクラスです。百年塾の環境プロジェクトは、この地の利を活かし、身近な太陽光発電で日立市を永続できるエネルギー自立の地にするという思いで取り組んでいます。一般家庭の太陽光発電や、農産物

生産と太陽光発電とを同時に使うソーラーシェアリングなど、太陽光発電の地産地消を広げたいものです。

「移動スーパー」試行開始!

日立市では、買物弱者の支援として11月25日から1日1~2回程度、高齢化が進む買物困難地域を対象に移動スーパー事業を試行します。

今回の試行にあたっては、高齢化率や近隣の店舗状況などから、市内の約40数カ所を対象として選びました。今後の利用状況により対象地域の拡大が期待されるので、市ではたくさんの利用を呼びかけています。

この移動スーパーは生鮮食品など400~450程度の商品を販売す



他市の移動販売の様子

るほか、希望商品があれば注文の受け付けも行い住民のニーズに応えます。また、移動スーパーが地域コミュニケーションの場となり、地域の活性化、高齢者の様子が分かるなどの効果が得られます。

今回の事業は将来のさらなる高齢化の進展に備えて行うもので、今回の試行が定着・拡大することを期待しています。

使用した海洋ミネラル納豆など、独創的で安全な納豆を作っています。最近は安価な輸入大豆で大量生産された納豆におされていますが、食の安全確保と味へのこだわりを信念に商品作りを続けています。独創技術で頑張っている企業を応援します。

きれいで実用的 “いぐさ小物”

諏訪町の田中畳店では、7年前からいぐさを使った小物をお客さまへのサービス品として作り始めました。ご夫婦で試行錯誤を重ねながら、様々な小物を開発しています。6年前には、畳コースターの実用新案登録をし、さらに、畳の縁布を使ったキーホルダー・ストラップ・小銭入れ・バックなど、商品範囲を広げています。



色とりどりの “いぐさ小物”

現在は市内で行われる大きなイベントでPRを目的に出店しています。きれいな色合いの実用的な製品は人気を呼んでいますが、一つずつ手作りのため、残念ながら大量の受注はお断りしています。

今後は、桜柄の商品開発に力を入れ、桜のまち日立のブランド品にしていけたらと、新商品への夢がふくらみます。

私たちは百年塾運動を応援します

2013.8.20~2013.11.8(敬称略)

【団体】(株)J W A Y 常陸観光バス(株)
 (株)日立ライフ 【個人】行田綏子 柄澤森二 木村幸子 涌井恵子 後藤登喜雄
 後藤恵美子 松井昌夫 松井順子 八重樫修 朝日正子 面川道宏 高橋文子 本柳粹子 藤崎圭一郎 大越典一



百年塾ひろば

「百年塾ひろば」を充実させるために、市民の皆さんのご意見や情報を寄せください。



パチさばきも見事な御饗太鼓



遊びのひろば この笑顔いつまでも



ワンちゃんたちに癒されて



作って・遊んで・工夫して

元気日立!「百年塾フェスタ2013」

今年は、ひたちの“いいね”を再発見ができるイベントをたくさん用意。遊びのひろばを中心に元気な子どもたちの声が響きわたり、8,000人の人々にぎわいをいた。



読み聞かせに夢中の子どもたち



おいしい元気村で舌づつみ



アンコールに応えるフラの天使たち



コミュニティの自慢がいっぱい



お目当てを探してにぎわうパティオモール



推進園・校の“いいね”展

河原原子海岸をきれいに!

11月の早朝、9名の仲間が河原原子海岸に集まって清掃を開始、毎月2回、北浜の浜辺と遊歩道を清掃する活動を始めて4年になります。

活動しているのは熟年ネット・ひたち（J-net）の自主グループで、平成21年5月に「日立の財産である浜辺が少しでもキレイになれ

ば！」との思いでボランティア活動を開始しました。

浜辺や遊歩道に散乱しているゴミ



ゴミ袋はすぐいっぱいに

を収集・分別して個人で処分しています。海岸のゴミはいくら拾っても尽きることなく、今後も活動は継続していくとのことです。

楽しみは、朝のすがすがしい中で健康的に活動ができるることと、2ヶ月に1回、海岸近くの喫茶店で1コインコーヒータイムと称しての、休息と仲間との談笑、井戸端会議とのことです。